

# 黒坂



# 納涼まつり



8月16日、恒例の黒坂納涼まつりが黒坂小学校グラウンドで開かれました。露店が並んだ会場には、地元住民をはじめ、お盆の帰省客らが集まり、夕方からの各種ゲームや日野中学校吹奏楽部の演奏などを楽しみました。

夜が訪れはじけると、黒坂小学校児童の傘踊りや、鳥取よさこい踊り子隊のよさこい踊りが披露され、また、400発の花火が夜空を染め上げ、祭りムードも盛り上がります。

花火の後は、やぐらを囲んでの全体踊りと大抽選会が行われ、祭りの最後を楽しく締めくくりました。



# もつと知ろう、菅沢ダム

私たちの暮らしを支えている菅沢ダム。7月に発生した豪雨による水位の上昇により、過去最大の大量の放流が行われました。今後新たな被害を起こさないよう、関係者らによる連絡会が開かれました。

水位設定の見直しなど  
関係者らで話し合う

8月29日、菅沢ダムを管理

する国土交通省日野川河川事務所、郡内3町と県等の関係者らによる第1回菅沢ダム連絡会が菅沢ダム管理支所（日南町菅沢）で開かれ、今後のダムのあり方や水位設定の見直しなどが話し合われました。

7月の大雨により  
毎秒200トンの水を放流

7月18日から19日にかけて発生した記録的な大雨により、町内を流れる日野川の水位は上昇し、町内各地に浸水被害をもたらしました。

中でも菅沢ダム（日南町菅沢）では、激しい雨に伴って、18日夜にはダムへの流入量が急速に増加し、洪水時満水位（これ以上上げてはいけない

水位）を超えるおそれが発生したため、19日未明に毎秒200トンの水を日野川へ放流しました。

菅沢ダムの最大放流量は毎秒100トンと定めてあります。しかし、大雨により毎秒200トンを超えるダムへの流入があったため、基準を超えた放流量となったのです。一方、この大量の放流の影響と思われる日野川の水位上昇が町内各地でみられ、住民の一部が自主避難するという事態も起きました。

管内最大の多目的ダムとして昭和43年に完成

菅沢ダムは、日野川の総合開発事業の中心として、支流である印賀川に昭和34年に着工、約30億円の事業費を投じ昭和43年9月に完成した県内最大の多目的ダムです。その

目的は、下流の洪水被害の軽減、かんがい用水の補給、工業用水の確保、日野川第一発電所での発電の4つです。

菅沢ダムは、これまでにも梅雨前線や台風により、毎秒100トンの放流をしたことはありますが、100トンを超えて放流したのは今回が初めてです。7月豪雨では、ダムの最高水位は標高389・05メートル（洪水時満水位は389・60メートル）に達し、毎秒200トンの放流量とともに過去最大で、豪雨のすさまじさを物語っています。

水害を防ぐため  
確保水位の見直しを

菅沢ダムでは、下流の利水の補給のために確保しておくべき確保水位（これ以上上げてはいけない水位）が設定されており、その水位は季節ごとに

変動します。豪雨が発生した7月中旬の確保水位は標高386・90メートルで、年間で最も高い水位となっています。今回の豪雨の際に洪水時満水位を超えるおそれが出たのも、確保水位が高く設定されていたことが一因と考えられています。

町では、水害を予防するために7月の確保水位を低く設定してほしいと要望しています。ダム側は、「ダムが確保している水は、農業用水や飲料水など、下流に住む人たちの生活に欠かせないものであり、

利水者の理解が必要となるので中・長期的に検討したい。来年7月までには確保水位や運用基準を見直す」と回答しました。

私たちの暮らしを支える日野川、そしてダムの働きについては、下流に住む私たちも知っておく必要があります。これから季節、台風などによる大雨も予想されます。日ごろから河川情報に気を配り、水害に対処できるよう心がけましょう。



インターネットで日野川の情報を知ろう！

日野川河川事務所ホームページ

<http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>

川の防災情報

<http://www.river.go.jp>

携帯電話用 <http://i.river.go.jp>